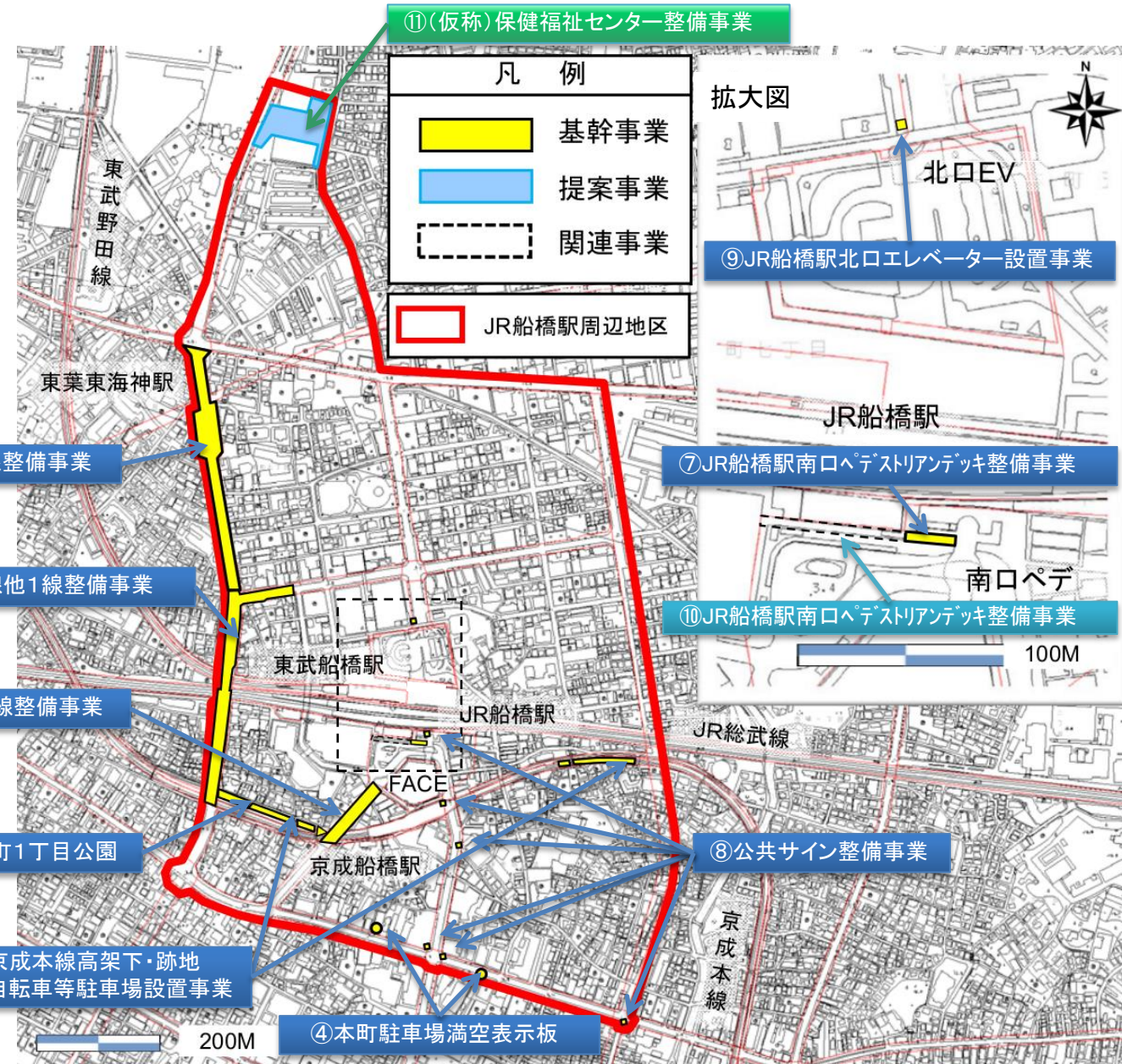


JR船橋駅周辺地区 都市再生整備計画事業 事後評価の概要

地区の概要

対象地区は以下のような地区となっています。

本地区は、JR総武線・京成本線・東武野田線・東葉高速鉄道の鉄道4線が乗り入れており、JR船橋駅・京成船橋駅・東武船橋駅の3駅の一日平均乗降客数は約47万人を数えるとともに、10路線34系統のバスルートをもつ、県内有数の交通ターミナルとなっています。



※各事業は右表に対応

- 地区名：JR船橋駅周辺地区
- 地区面積：76ha
- 計画期間：平成24年度～平成28年度
- 交付期間：平成24年度～平成28年度

まちづくりの課題

事業実施前には以下のような課題がありました。

本地区は、産業・文化・情報等の都市機能が多様に集積する交流拠点としての整備が図られていますが、**駅へのアクセス道路を含む都心道路ネットワークの整備や歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる施設等の整備と当該地区内に点在する公共施設への案内表示、及び公園整備**が課題となっていました。

また、高齢化の進行や生活習慣の変化により、医療機関受診者や救急患者の増加など、医療に対する需要が増大しています。さらに、医師・看護師の不足や、診療時間外の不急不要な受診などによる医療現場の混乱が社会問題化しています。こうした状況の中、安定した保健医療サービスを提供し続けるためには、**保健・医療・福祉の関係機関が連携を強化しながら、地域医療・救急医療体制の充実を図る**ことが課題となっています。

まちづくりの目標

以下に示す目標に向けたまちづくりを行いました。

「本市の玄関口に相応しいにぎわいと活気にあふれた中心市街地の創出並びに健康で安心した生活ができる環境の整備」

- 目標1: 駅へのアクセスを含む**都心交通ネットワークの構築**
- 目標2: **歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる施設整備**
- 目標3: **保健・医療・福祉サービスの連携を推進する拠点施設等の整備**

事業内容

目標達成のために以下の事業を実施しました。

整備方針	実施事業	
駅へアクセスする都市計画道路や駅周辺を南北に縦断する都市計画道路を整備することにより、 都心道路ネットワークを構築 し主要幹線道路の交通渋滞の緩和を図ります。	基幹事業	①3・3・7号線整備事業 ②3・3・7号線他1線整備事業 ③3・4・11号線整備事業 ④本町駐車場満空表示板
駅への接続デッキや駅へアクセスする歩道を整備することにより、 歩行者や自転車利用者の安全性や快適性を高めます 。 公園や公共サインの整備を行い、地域住民の快適性を高め、来街者等を主要施設へ誘導することで、 利便性の向上を図ります 。	基幹事業	①3・3・7号線整備事業 ②3・3・7号線他1線整備事業 ③3・4・11号線整備事業 ⑤(仮称)本町1丁目公園 ⑥京成本線高架下・跡地自転車等駐車場設置事業 ⑦JR船橋駅南口ペDESTリアンデッキ整備事業 ⑧公共サイン整備事業 ⑨JR船橋駅北口エレベーター設置事業
	関連事業	⑩JR船橋駅南口ペDESTリアンデッキ整備事業(民間整備)
自転車等駐車場を整備し歩道部等に放置された自転車等を減少させ 快適な歩行空間を確保 します。	基幹事業	⑥京成本線高架下・跡地自転車等駐車場設置事業
保健・医療・福祉サービスの連携を推進する拠点を整備 することにより、日々の安全な生活を支える仕組みや体制の充実を図ります。	提案事業	⑪(仮称)保健福祉センター整備事業

目標の達成状況

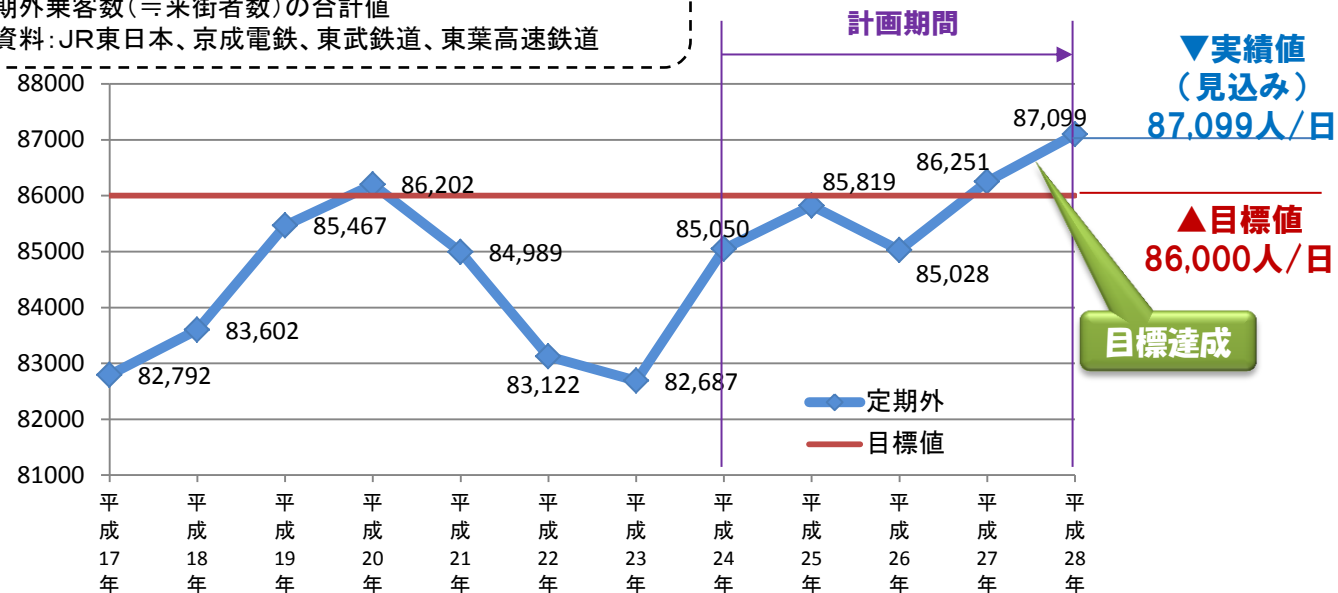
以下の指標により目標の達成状況を評価しました。

4駅定期外乗客数(人/日)

各種事業の相乗効果により、定期外乗客数(来街者)は、平成26年に一時減少するものの、平成23年以降の全体の傾向としては増加していることから、効果があったと考えられます。

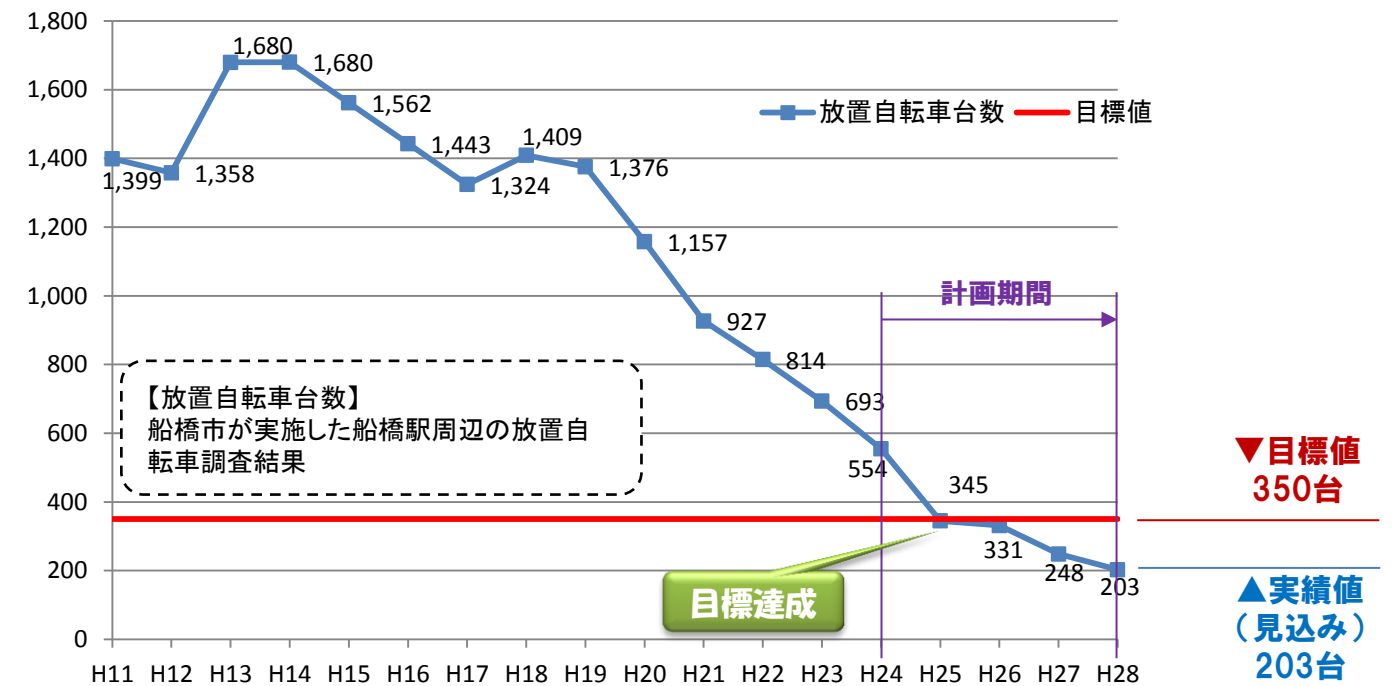
【4駅定期外乗客数】

4駅(JR船橋駅、京成船橋駅、東武船橋駅、東海神駅)の定期外乗客数(≒来街者数)の合計値
資料: JR東日本、京成電鉄、東武鉄道、東葉高速鉄道



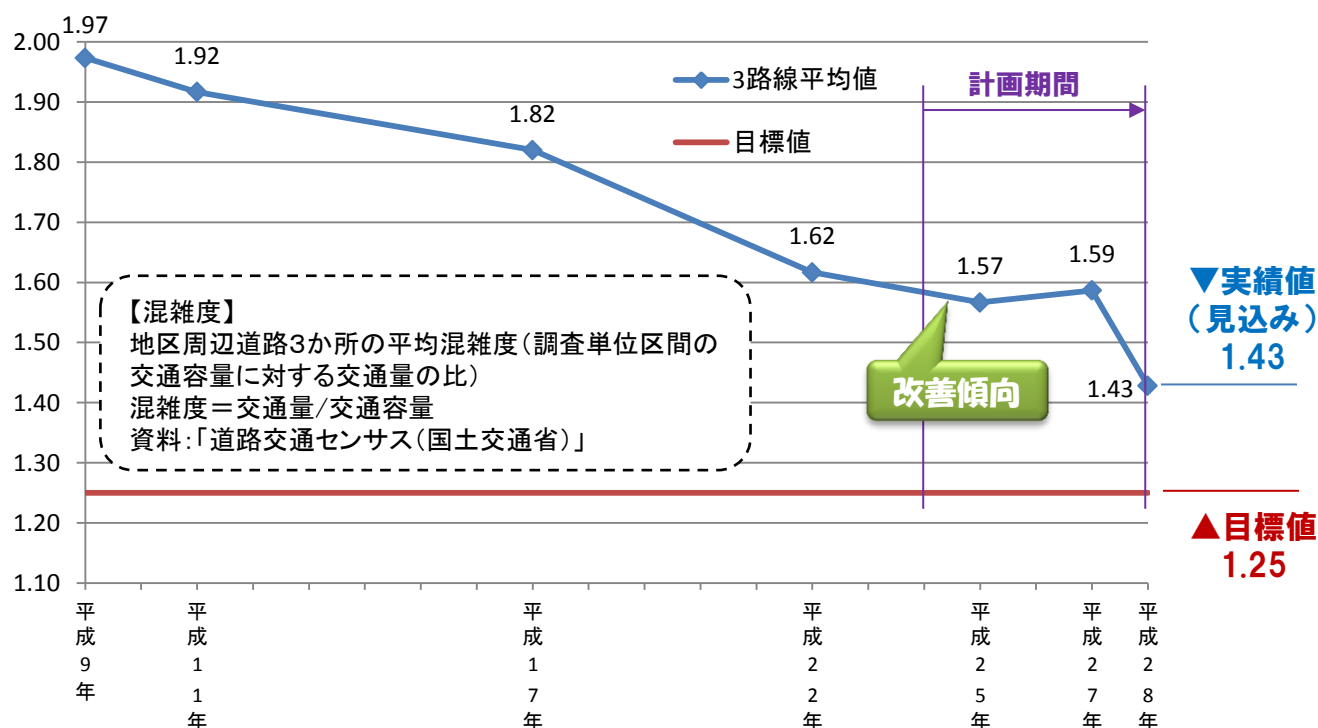
放置自転車台数(台)

京成本線高架下自転車等駐車が整備されたことにより、放置自転車台数が減少していることから、効果があったと考えられます。



交通渋滞の緩和(混雑度)

都心道路ネットワークを形成する道路の一部完成や鉄道の高架化により、都心部の交通渋滞がある程度改善されましたが、一部未完成部分があることから目標は未達成となっています。



保健・医療・福祉サービス拠点事業の満足度

調査結果を見ると、平成24年度の結果と比べ平均値が上がっていることから、効果があったと考えられます。

【従前値:平成24年度の調査結果】

項目		満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	合計	平均値
		4点	3点	2点	1点		
施設のサービスについて	人数	61	164	47	22	294	2.89
	点数	244	492	94	22	852	

【目標値】

項目		満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	合計	平均値
		4点	3点	2点	1点		
施設のサービスについて	人数	61	198	24	11	294	3.05
	点数	244	594	48	11	897	

1点、2点の半数が3点に移行

【評価値:平成28年度の調査結果】

項目		満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	合計	平均値
		4点	3点	2点	1点		
施設のサービスについて	人数	69	90	15	4	178	3.25
	点数	276	270	30	4	580	

確定値

目標達成

今後のまちづくり方策

評価結果を踏まえ、今後は残された課題や新たに発生した課題に対応するために、以下のような取組を進めます。

■まちの課題の変化

- 都計道3・3・7号線他1線が完成したことで南北の交通条件が改善し、都心道路ネットワークの形成に大きく寄与できました。
駐車場満空表示板の設置により駐車場への車両案内がスムーズになったことで、駅周辺道路の迷惑駐車や駅南側の交通渋滞の緩和につながり車両の駅へのアクセス性が向上しました。
- 京成線高架下自転車等の駐車場の整備により、駅周辺の放置自転車が減少し、歩行者等が安全かつ快適に通行できるようになりました。
北口エレベータの設置によりバリアフリー化が図られ、高齢者や障害者も駅の南北の移動がより快適になりました。
- （仮称）保健福祉センター整備事業が完成し、船橋市の保健・医療・福祉のサービス拠点の中心として日々の安全な生活を支える体制が整いました。

■今後のまちづくり方策

- 関連事業のペDESTリアンデッキ整備の完了と併せて、現在、地下駐輪場から地上階までのエレベーターをペDESTリアンデッキ階まで延伸するよう検討します。
- 3・4・11号線の整備後、ペDESTリアンデッキ階の回遊性を高めるとともに、歩行者等の安全な歩行空間を充実させます。
- 新たに整備された保健福祉センターの認知度向上やソフト事業の充実を図ります。
- 都市再生整備計画事業で建設・設置された道路や施設について、適切に維持・管理を行い長寿命化を図ります。

北習志野駅周辺地区 都市再生整備計画事業 事後評価の概要

地区の概要

対象地区は以下のような地区となっています。

本地区は、市の東部に位置し公団開発による集合住宅を中心に自然発生的な住宅地により形成され、駅周辺には商店街が形成されています。

また、北習志野駅には新京成線・東葉高速鉄道の鉄道2線が乗り入れており、1日の平均乗降客数は約79,000人のターミナル駅となっています。また、高根木戸駅約8,000人であり都心への通勤圏として利便性の高い住宅地となっています。

- 地区名：北習志野駅周辺地区
- 地区面積：158ha
- 計画期間：平成24年度～平成27年度
- 交付期間：平成24年度～平成27年度

まちづくりの課題

事業実施前には以下のような課題がありました。

本地区は、都心への通勤圏に位置し良好な住宅地が形成されています。各駅周辺には、商店街等の生活利便施設が形成され周辺居住者等に日々利用されていますが、これらの施設を利用する駅利用者や商店街利用者等が安全かつ快適に利用できる施設の整備が課題となっています。

まちづくりの目標

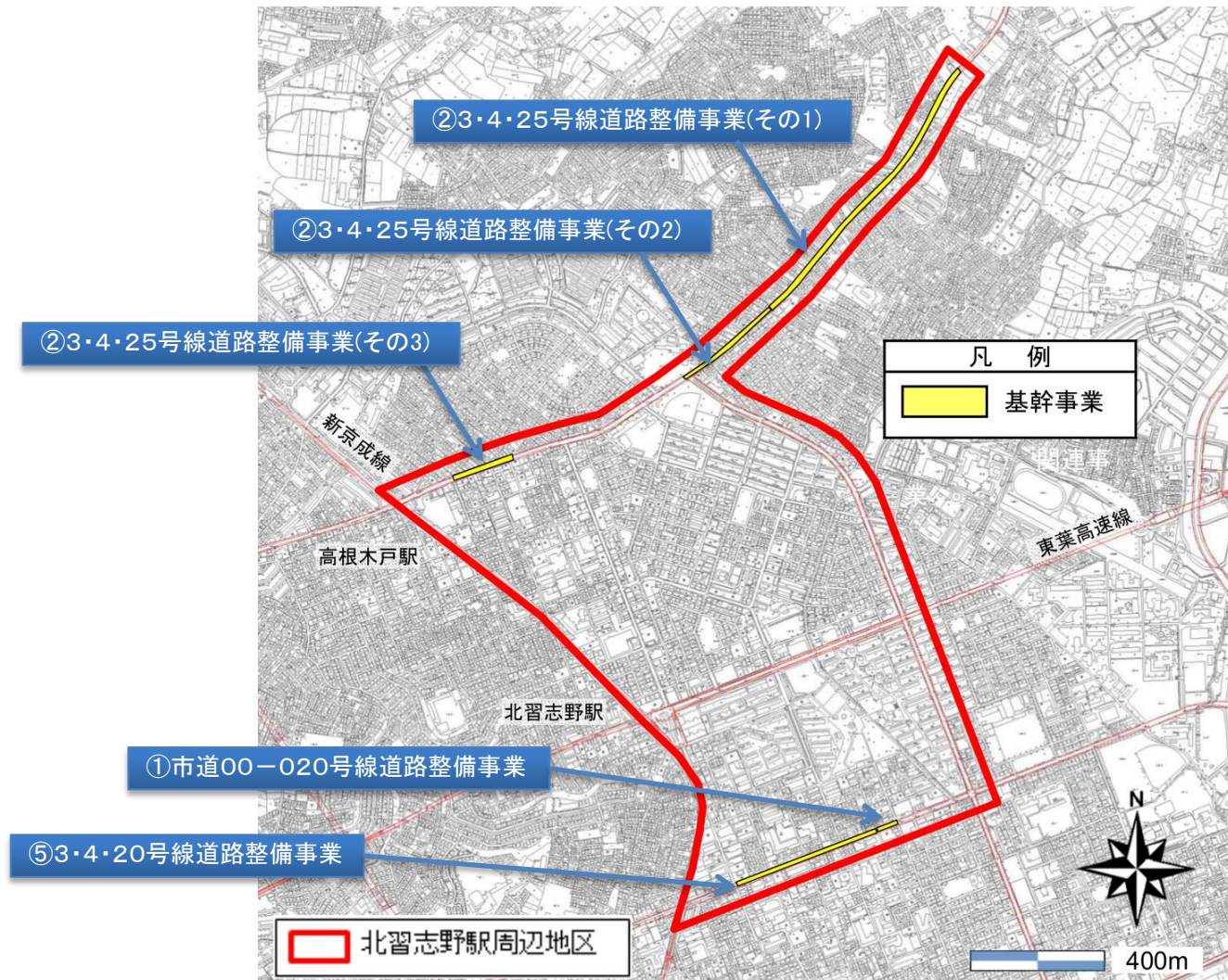
以下に示す目標に向けたまちづくりを行いました。

「交通が便利で楽しくショッピングができる住宅地の創出」

目標1: 歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる施設の整備

事業内容

目標達成のために以下の事業を実施しました。



整備方針	実施事業
<p>駅へアクセスする歩道等を整備し歩行者や自転車利用者の安全性や快適性を高めます。</p>	<p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①市道00-020号線道路整備事業 ②3・4・25号線道路整備事業(その1) ③3・4・25号線道路整備事業(その2) ④3・4・25号線道路整備事業(その3) ⑤3・4・20号線道路整備事業



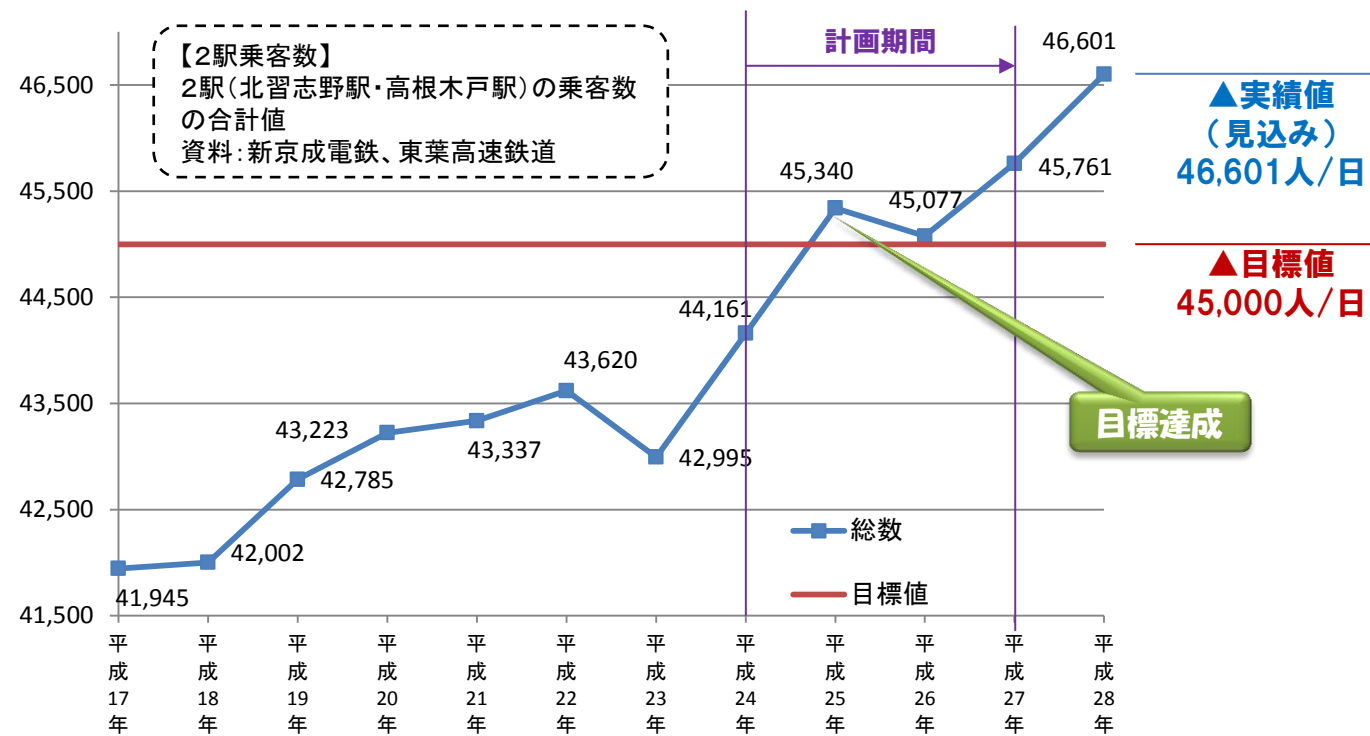
※各事業は右表に対応

目標の達成状況

以下の指標により目標の達成状況を評価しました。

2駅乗客数(人/日)

都市計画道路3・4・25号線(その3)が暫定的に供用開始されたことで、歩道が安全に通行できるようになり高根木戸駅の乗降客数の増加につながったと思われます。



今後のまちづくり方策

評価結果を踏まえ、今後は残された課題や新たに発生した課題に対応するために、以下のような取組を進めます。

■まちの課題の変化

○歩道が暫定的に供用されたことにより、交通事故が減少したことから歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できるようになったと思われます。

■今後のまちづくり方策

- 都市再生整備計画事業で建設・設置された道路や施設について、適切に維持・管理を行い長寿命化を図ります。
- 児童生徒等を交通事故から守るために未整備歩道の整備を促進し、安全な歩行空間を確保します。

交通事故件数(件/年)

3・4・25号線は整備が完了していませんが、連続した歩行空間の確保や交差点改良が完了したことにより、対象区間での交通事故件数が減少しました。

